

## 中央アジア天山ウルムチNo.1氷河の浅層アイスコアの化学成分と鉱物粒子

## Chemical solutes and mineral particles in a shallow ice core from Tianshan Urumqi No.1 Glacier

\*宮内 謙史郎<sup>1</sup>、竹内 望<sup>1</sup>、若林 梢<sup>1</sup>、石田 依子<sup>1</sup>、Li Zhongqin<sup>2</sup>

\*Kenshiro Miyauchi<sup>1</sup>, Nozomu Takeuchi<sup>1</sup>, Kozue Wakabayashi<sup>1</sup>, Yoriko Ishida<sup>1</sup>, Zhongqin Li<sup>2</sup>

1.千葉大学、2.天山氷河観測所

1.Chiba University, 2.Tianshan Glaciological Station

中央アジアの氷河で掘削されるアイスコアには、乾燥域特有の砂塵の供給によって数多くのダスト層が含まれている。ダスト層は年層決定に使われることも多いが、それぞれのダスト層の化学的、鉱物学的特徴についての詳細な分析はほとんど行われていない。本研究では、中国天山山脈のウルムチNo.1氷河で2006年に掘削された深さ8mの浅層アイスコアを用いて、化学成分と鉱物粒子に注目した分析を行った。顕微鏡分析の結果、このアイスコアにはおよそ10層のダスト層が含まれていることがわかった。化学成分との比較の結果、ダスト由来成分であるCaやMgイオンの濃度は、ダスト層の粒子濃度とは必ずしも一致しなかった。またダスト層によってCa/Mg比が高い層と低い層があることが明らかになった。このことは、毎年形成されるダスト層でも鉱物粒子の構成が異なることを示唆している。これはダストの供給源が年によって異なるためと考えられる。

キーワード：アイスコア、ダスト、中央アジア

Keywords: Ice core, dust, Central Asia